

TYPE OF INDUSTRY

情報通信研究機構

NICT 先端研究

96

IOT（モノのインターネット）という用語から想起される主流な事業形態といえは、膨大なデータが大手IT企業などのクラウドに収集され、ビッグデータ処理や人工知能で

得られた予測結果など、元来のIOTの概念が提供される形態ではなかろうか。情報通信研究機構（NICT）のソーシヤルICTシステム研究室は、無線技術Wi-Fi SUN（ワイサン）を活用した「モノとモノが互いにつながり新たな価値を創る」とい

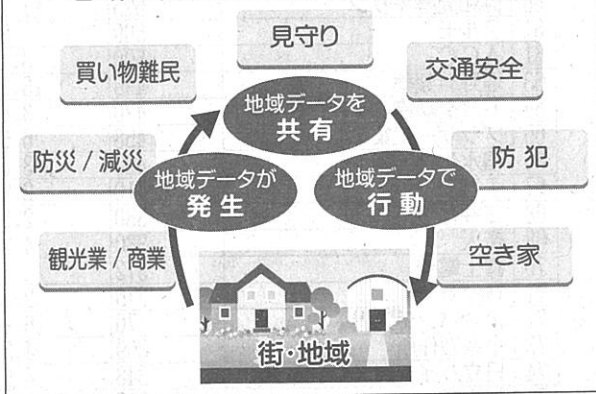
IOT無線でデータ地産地消

総合テストベッド研究開発推進センター・ソーシヤルICTシステム研究室室長 莊司 洋二
99年郵政省通信総合研究所（現NICT）入所。無線・光通信システムの研究開発に従事。08年文科省若手科学者賞受賞。10年英国UCL客員研究員。博士（工学）。



科学技術・大学

“データの地産地消”で地域の課題を地域で解決する概念



アには、地域の人流や物流にデータの流通も託せば、携帯電話ネットワークやインターネットも不要の、情報集配ネットワークを現できると見込む。私たちは昨年、東京都内の営業中タクシー26台にWi-Fi SUNに24時間後には約430平方メートル（東京都23区の約7割）を超えるエリアに配信されていることを確認した。

（火曜日に掲載）